

雨の中 50 名の方が参加、自民・公明除く全会派が出席！ 「スーパー堤防問題・議員候補シンポジウム」を開く（3月21日）



参加した各会派代表と住民代表のパネラー
須田(共産党)、神尾(民主党)、稲宮(生活者ネット)
上田(みんなの党)、田中(一人の会)の各氏



熱心にメモをとる参加者。
会場には、田の上都議(民主党)と藤沢区議(共産党)
ふるい候補(共産党)、堀場候補(生活者ネット)も参加

「民主・共産・ネット・みんなの党・一人の会」の参加各会派はスーパー堤防計画に反対を表明
与党会派は参加して意見を言うべきだ、の声

北小岩・18班・篠崎の3地区の「考える会」は、3月21日(月)、小岩アーバンプラザにて、スーパー堤防問題について「全候補アンケート結果の報告と、それに基づく各会派代表とのシンポジウム」を開催しました。

朝からの雨と、お彼岸にも関わらず、50名の方が参加してくれました。

まず、3月11日に起きた東日本大震災による江戸川区内の被災状況を、スライドを使って報告し、特に被害の大きかった清新町の実態を説明しました。清新町は、江戸川区が地域防災拠点として安全な所と位置付けた、言わばスーパー堤防のモデル地区でした。ここで液状化が起き、建物が傾き、地割れが起きて被害が大きくなったのです。元々干潟だった所を埋め立てて盛り土をし、そこに街をつくって学校を建てたところなのです。

北小岩や篠崎公園地区のスーパー堤防計画地では被害がないのに、盛り土をしたところが被害にあう、これはとりもなおさず「スーパー堤防は危険」と言うことになる、と警告しました。

その後、各会派の区議会議員候補者のパネラーにより、スーパー堤防計画の行政の進め方や防災の在り方について、各々が見解を述べました。会場からは「アンケートにも参加しない、そんな会派が区議会の与党を握っていて良いのか。スーパー堤防賛成なら賛成で意見を言うべきではないのか」と議員としての在り方を問う声もありました。

なお、清新町の被害の実態と、その原因を探る催しは、別の機会に行なう予定です。



「建設委員会傍聴記」は
議会閉会中につき
お休みします。